

# 流通とSC・私の視点

2011年12月18日

視点(1493)

経済消費レベルとSCのライフサイクルとは!!

経済消費レベル（プレモダン消費・モダン消費・ポストモダン消費・ニューモダン消費）とSCのライフサイクル（導入期・成長期・飽和期・成熟期・衰退期）を米国、日本、中国別にクロス分析すると次の通りです（六車流：流通理論）。

	米 国	日 本	中 国	
1945年代	モダン消費 (35年)	プレモダン消費 (15年)	プレモダン消費 (50年)	
1950年代		SCの導入期 (10年)		
1960年代				SCの成長期 (25年)
1970年代	ポストモダン消費 (30年)	モダン消費 (30年)	SCの導入期 (10年)	
1980年代		SCの飽和期 (20年)		SCの成長期 (40年)
1990年代				SCの成熟期 (30年)
2000年代	ニューモダン消費 (50年)	ポストモダン消費 (20年間)	SCの導入期 (10年)	
2010年代		SCの成長期 (30年)	SCの成長期 (10年)	
2020年代		?	SCの飽和期 (10年)	SCの成長期 (30年)
2030年代			SCの成熟期 (30年)	SCの飽和期 (10年)
2040年代			?	?
2050年代	?	?	SCの成熟期 (?)	

SCの飽和期は、もうこれ以上SCは必要ないとマーケットが感じる段階ですが、この段階でも20%~30%のSCの量的拡大は続き、やがてオーバーストア状態になります。SCの飽和期のオーバーストアの後に、SCの成熟時代になります。

SCの成熟期は、SCの量的拡大はありませんが、「多様なSC」や「多質なSC」が過去の延長線上の概念ではないレベルで業態が出現し、同時に旧型SCが淘汰されるといわれる「新陳代謝」が起こり、SCの成熟期になるとオーバーストア状態が解消します。

日本は2011年よりSCの飽和期となり、もうこれ以上SCは必要ないとマーケットが感じる段階ですが、10,000㎡以下の小型SCや都市型SCや郊外のエアポケット立地のSCの開発が進み量的拡大は続きます。それにより、オーバーストア現象が起こりますが、やがてSCの成熟時代となります。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代 表 六 車 秀 之